

2011年2月12日実施

## 解 答

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 (C)  | 2 (D)  | 3 (A)  | 4 (C)  | 5 (D)  | 6 (C)  |
| 7 (B)  | 8 (C)  | 9 (D)  | 10 (B) | 11 (D) | 12 (B) |
| 13 (A) | 14 (A) | 15 (C) | 16 (A) | 17 (D) | 18 (C) |
| 19 (C) | 20 (C) |        |        |        |        |

1. 「ハリエットはどうやって連絡を取ったらしいか知っている?」

▶ 空欄前に前置詞inがあるので、名詞としても使われる(B)reach, (C)touchから文脈にふさわしいものを選ぶ。get in touch with ~で「～と連絡を取り合う」という意味で、(C)がふさわしい。

□ **get in touch with** ~ 「～と連絡をとる」 (= contact)

Did you get in touch with the manager?

(支配人と連絡がとれましたか。)

▶ **keep in touch with** ~ 「～と連絡を取り合う」

▶ 一時的に連絡をとるなら**get**, 繙続的に連絡をとるなら**keep**。

2. 「昨日ベートーベンの最初の3つの交響曲を聴いて、今日残りすべての交響曲を聴くつもりだ」

▶ the otherは2つのものの中の「もう1つ」を表す。複数形のthe othersは「他のものすべて」の意味。したがって、(D)が適切である。

□ **the others** 「残り全部」

▶ 3つ[3人]以上のものから, oneまたはsomeを取った「残り全部」はthe othersで表す。

I have four cards here. One is red and the others are all green.

(ここに4枚のカードがあります。1枚は赤で、残り全部は緑です。)

3. 「先週サトミは彼氏にバレンタインのプレゼントを買った」

▶ buy A B「A(人)にB(物)を買う/買い与える」の構文は第3文型にするとbuy A for B「B(人)のためにA(物)を買う」となる。前置詞がforになることに注意。なお、(D)はa present for her boyfriendならば正しい。

[例] My uncle bought me an MP3 player. [第4文型]

(おじがMP3プレイヤーを私に買ってくれた。)

→ My uncle bought an MP3 player for me. [第3文型]

4. 「もしもっと早くその良いニュースを知っていたら、電話をかけておめでとうと言ったのに」

▶ 仮定法過去完了の文なので(C)が適切である。

## 仮定法過去完了

基本形: If + S + had done, S' + 助動詞の過去形 + have done ...

「もし(あの時) ~だったら、…だったらう(に)」と過去の事実に反する仮定・想像をする構文。

If I had left ten minutes earlier, I would not have missed the train.

(もし10分早く出発していたら、列車に乗り遅れることはなかっただろうに。)

5. 「先生は来週、修学旅行のお金を持ってくるように私たちに言った」

▶ 直前に人を目的語にとる他動詞remindedがあるので、空欄の先頭には人を表す名詞の目的格がくると考えられる。remind A to doで「Aに～するように思い起こさせる」という意味。remind A that S Vの構文もあるが、that節中は原形動詞はとらないので、(B)は不可。

□ **remind A to do** 「Aに～することを思い出させる[するよう注意する]」

□ **remind A that** ~ 「Aに～ということを思い出させる[注意する]」

Remind him to come home early.

= Remind him that he must come home early.

((彼が忘れていたら)早く帰宅するように彼に注意しなさい。)

□ **remind A of B** 「AにBを思い出させる」

This photograph always reminds me of the trip to Switzerland I took by myself.

(この写真を見ると、いつもスイスへの一人旅のことを思い出す。)

- ▶ 無生物主語の文になることが多いので、ふつうは「(主語)を見ると[聞くと]AはBを思い出す」と訳す。

**remind A of Bタイプの動詞**

- |                                      |                                   |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| □ <b>remind A of B</b> 「AにBを思い出させる」  | □ <b>inform A of B</b> 「AにBを知らせる」 |
| □ <b>convince A of B</b> 「AにBを確信させる」 | □ <b>warn A of B</b> 「AにBを警告する」   |
| □ <b>persuade A of B</b> 「AにBを納得させる」 |                                   |

6. 「ボーアカウトをしていたとき、マッチやライターを使わずに火を起こす方法を学んだ」

- ▶ 前置詞withoutの後は名詞形が来るので、(C)usingの動名詞形が適切。(A)useには「使用」という名詞としての用法もあるが、use of ~「～の使用」という形で使われる。

□ **how to do** 「どのように～すべきか/～の仕方」

*How to use the library is the key to a successful college life.*

(図書館をどのように利用するかは充実した大学生活への手がかりである。)

- ▶ 疑問詞がto不定詞と結びついて名詞句を作り、文中で主語・目的語・補語になる。例文ではhow to useが文の主語になっている。

7. 「スザンは彼らがそんなに急いで行動しないようジョンを説得した」

- ▶ 選択肢には動詞convinceの原形・過去形・受動態・現在分詞が並んでいる。Susanは3人称単数であるが、(A)は原形になっているので不可。(C)はwas convinced byならば可。よって、(B)が正しい。

□ **convince A that ~** 「Aに～だと納得させる」

I convinced him that she was sincere.

(彼に彼女の誠実さを確信させた。)

□ **convince A of B** 「AにBを確信させる」

□ **A is convinced of B** 「AはBを確信している」 (= A is sure of B)

8. 「来月までにその仕事を仕上げておいてくれますか?」

- ▶ 「～までに」はbyかbefore。untilは、「ある時までずっと～をしている」という時に使うので不可。beforeは接続詞としての用法も重要である。

[例] I'll finish it before you come home.

(あなたが帰って来る前にそれをすませておきます。)

**『時』を表す接続詞**

- |  |
|--|
| □ <b>before</b> ~「～する前に/～しないうちに」                           |
| □ <b>since</b> ~「～して以来」 [過去の始点]                            |
| □ <b>until[till]</b> ~「～するまで(ずっと)」 [動作や状態の継続]              |
| □ <b>by the time</b> ~「～するまでには」 [完了の期限]                    |
| □ <b>every[each] time</b> ~「～するたびに/～するときはいつも」 (= whenever) |
| □ <b>once</b> 「いったん[ひとたび]～すると」 [時+条件]                      |

9. 「私自身ニューヨークに行ったことがないので、その良いホテルを紹介してあげられない」

- ▶ 副詞句の主語がないので、(D)の分詞構文の形にする。recommendation「推薦(すること)、助言、勧告」という意味である。

[例] Bill gave her a recommendation on a good movie to see.

(ビルは彼女にいい映画を推薦した。)

- ▶ 本問のように、分詞を否定するnotやneverなどは分詞の直前に置く。

[例] **Not knowing** what to say, he kept silent.

(何を言えばよいのかわからず、彼は黙っていた。)

10. 「もう少し落ち着く音楽をかけてくれない? 今大きな音の音楽を聴く気分じゃないんだ」

▶ 選択肢はすべて前置詞であるので、文中にキーワードとなる語がないか探す方針で解く。(B)を選び、**be in the mood for** ~で「~を求める気分である」という表現が文脈上ふさわしい。

**put on** ~ 「(服などを)身に着ける/(CD・テープなどを)鳴らす」

**be in the mood for** ~ 「~を求める気分である」

*Are you in the mood for a walk?*

(散歩に行かないか。)

11. 「つまり、ケンは仕事を失いたくなかったらもう少し一生懸命働く必要があるということなんだ」

▶ **in short**は「要約して言うと」という意味のイディオム表現(= **in brief**)。

**need to do** 「~する必要がある」 ➔ この**need**は一般動詞

▶ **need doing** 「~される必要がある」 (= **need to be done**)

▶ **need**の目的語となる動名詞は受動的な意味を持つ。

*Those windows need cleaning.* (これらの窓は掃除する必要がある。)

= *Those windows need to be cleaned.*

12. 「私たちは今出発しないといけない。さもないと電車に乗り遅れるよ」

▶ **otherwise**はここでは「さもないと」という接続詞的に使われる副詞。

**whether or not** 「(…する)かどうか」     **otherwise** 「もしそうでなければ」

**unless** 「~でない限り」                       **instead** 「その代わりに」

13. 「私はついにハリーに彼の新しい実験計画を打ち明けさせた」

▶ (B)**instruct**「(人)に(…するよう)指図する」と(C)**teach**「(人)に教える」は目的語に人が必要。(D)**remark**は**remark on** ~「~について述べる」と前置詞がいる。したがって(A)**reveal**「~を明らかにする」が正解。

#### haveとgetを使った『使役』を表す表現

**have[get] A done** 「Aを~してもらう[させる]」 ➔ Aは主に『物』

**have A do/get A to do** 「Aに~してもらう[させる]」 ➔ Aは主に『人』

I'll **have[get]** my baggage **carried** by a porter.

= I'll **have** a porter **carry** my baggage.

= I'll **get** a porter **to carry** my baggage.

(荷物をポーターに運ばせよう[運んでもらおう。])

14. 「辞書でその単語の意味を調べてくれますか?」

**look up** ~ 「(辞書・電話帳を使って)~を調べる」

*Unknown words should be looked up in a dictionary.* [受動態]

(知らない単語は辞書で調べるべきです。)

#### ■『辞書』にまつわる表現

**consult[use] a dictionary** 「辞書を引く」

**look up a word in a dictionary** 「辞書で単語を引く」

**look up in [consult] a dictionary** 「辞書を引く」

**a working dictionary** 「生き字引」

**show up** 「現れる/姿を見せる」 (= appear/come/arrive)

*They finally showed up at 11:30.*

(彼らは11時30分になってやっと現れた。)

15. 「そのプログラムはコンピューターをほとんど使ったことがない人でも扱いやすい」

▶ 選択肢はすべて他動詞(意味上の目的語がthe program)であるので、文脈にふさわしい語を選ぶ。コンピューターのソフトを「使う」には、(C)**operate**「~を操作する」が適切である。その他の選択肢は、(A)**drive**「(車など)を運転する」、(B)**train**「~

を訓練する」, (D)inform「～に知らせる」という意味である。

16. 「ナタリーはブラッドが彼女に嘘をついた後は彼を信じられなくなった」

- (B)depend, (C)relyは「～を頼る」の意味では前置詞onが必要。(D)confideは「(秘密などを)打ち明ける」の意。したがって、他動詞の(A)trust「～を信頼する」が正解。

#### 『頼る/あてにする』の同意表現

「(Bを)Aに頼る/あてにする」

depend on[upon] A (for B)

rely on[upon] A (for B)

count on[upon] A (for B)

\*turn[look] to A (for B)

\*(困った時などに)～のほうに(to)振り向く[を見る](turn[look])→「～に頼る/～を参照する」

[例] She turned to her friend for advice.

(彼女はアドバイスを友達に求めた。)

17. 「公園保護官は10代の子どもたちにその川は流れが早く深いので自分の責任で泳ぐようにと注意した」

- 文意を汲みながら、空欄前後にキーワードとなる語がないか調べていく方針で解く。空欄前のat their ownと(D)riskを選べば, at their own risk「彼ら自身の責任において」という意味になり、文意にもふさわしい。その他の選択肢は、(A)safety「安全(性), 無事」, (B)fault「誤り」, (C)danger「危険」という意味。

at one's own risk 「自分の責任において」

Park your car here at your own risk.

(自分の責任においてここに駐車しなさい。)

18. 「招待状は必要ないよ。誰でもそのパーティには行っていいんだよ」

- 誰でも参加できるパーティということであるから, (C)のAnyone「(肯定文で)だれでも」が適切。

#### ■ anyoneの用法

(1)[疑問文で]「だれか/だれでも」

Does anyone know where Tom lives?

(だれか, トムの住んでいる所を知りませんか。)

(2)[否定文で]「だれも/どの人も」

She was so sad that she did not want to speak to anyone.

(彼女はとても悲しかったので、誰にも話しかけたくなかった。)

(3)[肯定文で]「だれでも/どの人も」

Anyone can do it.

(そんなことはだれにでもできて当たり前ですよ。)

19. 「就職できなくて残念でしたね。たぶん次にはうまくいきますよ」

- 選択肢がすべて前置詞であるので、空欄前のworkと合わせて文意に合う表現となるものを選ぶ。

work out 「(事が)うまくいく/～という結果となる」

Their married life didn't work out.

(彼らの結婚生活はうまくいかなかった。)

► things work out better 「状況はよりよくなる」

► 他動詞用法**work out** ~ 「(問題など)を解く(=solve)」も重要。

(A) work in 「(埃などが)入り込む」 (B) work on 「働き続ける」

(D) work up 「…まで昇進する」

20. 「クリストファーはまたタバコを吸っているね。彼はタバコをやめたと思っていたが」

give A up 「Aを諦める/やめる」

(A) give away ~ 「～をただでやる」 (B) give in ~ 「(書類など)を提出する」

(D) give over ~ 「(物・人など)を引き渡す」